

あとがき

広島県酪農業協同組合（以降、「広酪」）は、平成6年4月1日に県内18の酪農専門農協の合併によって産声をあげて以来、この間、順風満帆とは云えず、紆余曲折な中で二十歳を迎えることが出来ました。

産声をあげる契機となった初回会合は、平成4年9月の組織整備推進委員会から始まります。以後、平成6年4月の合併までの短期間に100回を超える会合が持たれ、ここでは、被合併対象組合による互いの利害関係問題の整理から、喧々囂々の真剣な協議が重ねられ、合併設立が実現されました。

平成6年1月の広島県酪農専門農協合併予備契約調印式に臨むにあたっては、“調印のどんでんがえしもあるのでは・・・”との関係者からの不安の言葉も囁かれましたが、各専門農協の代表者が揃って調印書に署名・捺印を終えられました。

当時、この大きなプロジェクトに加わられたリーダーや関係諸先輩の英知と英断に敬意を表するとともに感謝の念に尽きないところであります。

広酪発足に際して、酪農家から寄せられる思いについてアンケートが行われましたが、回答戸数の割合が最も高かったのが「組合経費の削減によって、経費負担を少なくし、生産者乳価を引き上げる」の項目でありました。

あれ以来、広酪では農業協同組合法の第8条に定められる「事業を通じて最大の奉仕」を肝に銘じつつ、経費削減への努力、かつ平成20年の「平成の酪農恐慌」に代表されますように、組合員の意見に耳を傾け、協調と対話を心がけ取り組んでまいり、近況ではTMRセンターの機能を充実し、国産粗飼料として調達可能な飼料イネ（WCS）をTMR原料に加えるなど、「安くて良いエサ」を供給すること等を通じて、組合員の生活向上への負託に貢献するため努力を重ね、未来への挑戦を行っております。

ここに改めまして、合併から歳月を経て、20年の節目を迎えることができましたことに感慨を覚えるものであります。

創立20年の節目を記念して「ひろらく20年の歩み」を編纂することになりましたが、酪農情勢、酪農経営が厳しき折り、予算節約を心がけ取り組みました。

編纂は、日常業務の中での作業で、かつ、時間的な制約などから不十分な点も多いのですが、広酪発足以来唯一の月間情報誌「らくのうだより」、「業務報告書」など積み上げられた内容に大きく助けられて刊行することが出来ました。

ここに20年間の軌跡を記録して、次の10年の道標として役立つことを念じつつ、編集委員一同肩の荷をおろす次第であります。

最後に記念誌発刊にあたり、公務ご多用のところ玉稿を賜りました広島県知事、全国酪農業協同組合連合会会長、広島県農業協同組合中央会会長の皆様方に対し、心から感謝とお礼を申し上げます。

平成26年11月吉日

編集委員

代表理事専務	鈴木 道弘
参 事	西中 晃
総務管理課長	吉岡 友和
事業推進課長	中山 篤志
市乳販売促進課係長	河内山 洋
総務管理課主事	岡田 友希

「平成16年度から平成25年度の「■酪農情勢」は「酪農経済年鑑」から引用

ひろらく20年の歩み
— 広酪20周年記念誌 —

発行日：平成26年11月28日

発 行：広島県酪農業協同組合

〒728-0023

広島県三次市東酒屋町306番地の65

電話 0824-64-2071

編集・印刷 シンセイアート株式会社